女と男いきいきネット

女と男いきいきネットワーク久喜・通信　第20号　2014,2,5発行

女と男いきいきネットワーク研修部
瀬山紀子さん講演会
「災害時代の男女共同参画
～社会と環境の変化の中で～」

今回のテーマは、豪雨や竜巻など何時襲ってくるかわからない「災害時代の男女共同参画～社会と環境の変化の中で～」と題した講演会でした。

講師は瀬山紀子先生で、With You さいたま（埼玉県男女共同参画推進センター）で事業コーディネーターとしてご活躍されています。

最初に、ご自身が働いているWith You さいたまの紹介がありました。今年一〇年目にして、初めてリーフレットができたそうですが、県内の80％以上がそこはどういうところかまだ知られていないということでした。現在、助成センターとしての公共施設が、埼玉には二〇ヶ所、全国には三八〇ヶ所ぐらいあるそうです。機能も、学習・相談・交流等々たくさんの分野に分かれていて、その中の女性チャレンジ事業としては、社会にたいする不信感から世の中に出ていくチャンスを失っているフリーター・ニート・引きこもりの人たち（若い女性）を集めて、社会的自立・再就職をめざすために身体ほぐし・心ほぐしでハンドマッサージから初めて支援しているという話でした。

相談事業も、電話を中心とした依頼が60％で年間六千件あり、身近な人に知られたくないとわざわざ県外からの相談もあり、二〇人に一人が命に関わる深刻なお話で、また配偶者暴力支援センターではDV被害にあわれた人が前に住んでいた住所地を移さずに現在の住所地で住民サービスが受けられる証明書もセンターで発行できるということでした。

災害時代についてのお話では、「普段は何もなくオブラートに包まれて見えてないところも、災害が起きると見えてくる。阪神淡路大震災では、なくなった人が女性のほうが千人も多かった。東日本大震災も、高齢者で家の中にいた女性が多かった。障がい者、高齢

者、一人暮らし、女性の貧困と考えると、弱いところに被害が出た。地域社会で一人ひとりが自立できるものにしていくために、男女共同参画は大切である。岩手県女性センターの報告では、災害にあった三県では児童・高齢者の虐待・DVがストレスやそれまでと違う環境と将来の不安から10％も増えていて、いたたまれない気持ちです。」とありました。

大きな災害に遭われた方は、忘れていくことが生きていく力になると同時に、また決して忘れてはいけない闘いがあると話されました。大変重く受け取りました。

最後に、災害が起きて初めて見えてくるものではなく、災害が起きない前の段階で男女共同参画や人権の立場から本音を出し合い、本当に大切な価値を伝えたいと話されました。

私は、お話の中で、「当たり前にその人がその人らしく生きていく」―そのことがどんなに大切で幸せなことか、学習会を通して学びました。

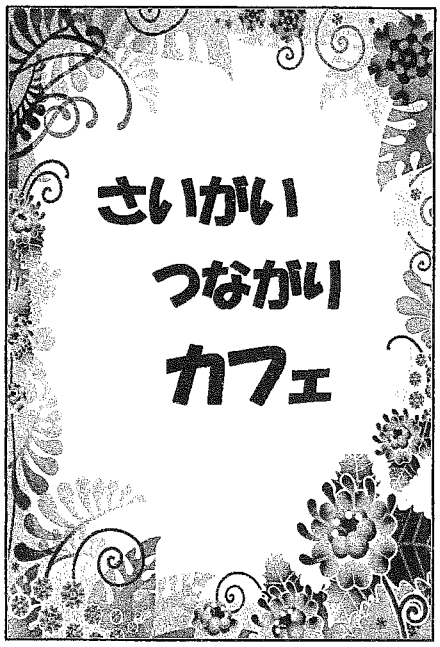
短時間でしたが、中味が濃く、全部を紹介できないのが残念です。

（研修部部長　稲木正子）

【瀬山紀子さんプロフィール】

With Youさいたま事業コーディネーター。東京都内の公立女性関連施設のコーディネータ等を経て現職。With Youさいたまでの事業全般のコーディネートに携わるほか、県内市町村、教育機関、地域団体等で男女共同参画の推進をテーマとした研修を多数実施。また、二〇一一年には「東日本大震災女性支援ネットワーク」の立ち上げに関わり、世話人として活動を担った。

二〇一二年三月までは、東京大学経済学研究科「経済と障害の研究」特任研究員。現在、科研基盤研究(S)「社会的障害の経済理論・実証研究」研究協力員。最近の主な研究テーマは、障害をもつ女性の貧困、及び、介護・介助者とジェンダーをテーマとする質的研究等。



♪毎月2回開催中♪

第2・4木曜 11:00～15:00

埼玉県男女共同参画推進センター

(With You さいたま)4階　和室

埼玉県内に暮らす被災地からいらした女性たちが安心して交流し情報交換をするための場「さいがい・つながりカフェ」を開催しています。

埼玉県の暮らしの情報収集や地域でのつながりづくりにこのカフェをご利用ください。

＜参加費：無料、申込み不要＞

Tel:048-601-3111

ニュース　女性議会開催

十一月一日に、今年も「2013久喜市いきいき女性議会」が開催されました。女性の視点からとらえた意見や提案などを市政に反映させることを目的に、二年に一回開催されるもので、今年で七回目。久喜市と女と男いきいきネットワークの協働事業です。

今年の女性議員は二十二名で、高校生・大学生、各種団体の推薦者、公募の方の質疑に対し、市長・教育長・各部長が答弁しました。質疑内容は、街づくり・子育て・福祉・環境問題等、幅広い分野のもので、皆さん鋭い質疑をされていました。

団体紹介

それぞれの道を模索して

久喜教育を考える会
代表　金田裕美

久喜教育を考える会は、不登校の子や親を支援するボランティアの会です。今から二十年前に始まりました。

その頃は、子どもが学校に行くことができない状態に、学校も家庭も右往左往していました。子どもの専門家と言われる人たちでさえ、まったく正反対と思われる見解と対応を出していました。ですから子どもたちは追い詰められ、最悪な事態も各地で起きていくのでした。

当時、唯一東京にあった「東京拒否を考える会」に参加した時、私は体験している人たちの話し合える場が、ほんとうに必要だと実感したのです。そして、会をつくり、開くことになりました。それからは、あちこちにできた会とつながり、不登校とは限らず、さまざまな団体から学び、情報交換をしています。

子どもの側に立って、子どもが安心できる状況をつくり出すことが最優先であるということが分かり、そのために周囲や家族がどのように対応したらいいのか、体験した方々から、知恵やヒントをたくさん学んでいます。

今でも、不登校にからむ、子どもの苦しい状況が続いています。不登校といっても千差万別です。参加する方、一人ひとりがそれぞれの道を模索しています。

お茶を飲みながら、愚痴でも何でも言える空間になるよう心がけて、ゆっくり歩んでいます。第4日曜日は、「本音・弱音・おやじの会」も開いていますので、お父さん方の参加もお待ちしています。

【連絡先】
久喜中央一－一五－七三－三一五
☎0480(23)0924　金田

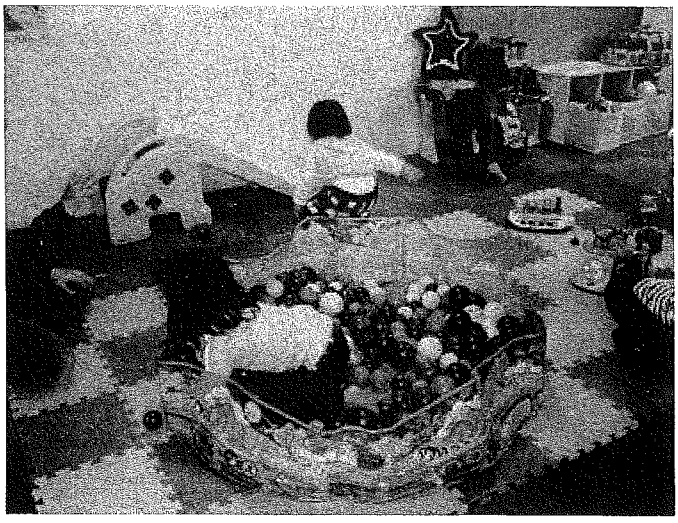
地域で子育てを！

特定非営利活動法人
子育てステーションたんぽぽ
代表　内海　弘美

こんにちは、特定非営利活動法人　子育てステーションたんぽぽです。私たちは「地域で子育て」を実現するために活動しています。子どもたちは家庭で生まれ育ち、地域へと巣立っていきます。地域コミュニティを図り子どもたちを受けとめていきたいと活動しています。

現在、久喜駅西口クッキープラザ五階で「子育て支援センター」を久喜市の委託を受け開設し子育て親子の集いの場となっています。

また、「お話玉手箱」のイベントを開催予定です。地域で活動する団体の紹介・活動発表を通しコミュニティを深めていきたいと考えています。イベントには多くの地域の方に参加していただきたいと希望しています。ぜひ遊びに来てください。



イベント「お話玉手箱」

日程：平成26年2月22日（土曜日）
時間：10：00～15：00（開場9：30）
会場：久喜総合文化会館小ホール
内容：久喜市内で活動する団体の紹介・活動発表
－　*コミュニティ企画・大抽選会*　－
（当日受付で抽選券を配布します）
参加費：無料　　☎0480(21)8825　内海

本多静六記念館見学

なの花会　深原　富美子

女性問題グループなの花会です。年間の行事として、公開講座や毎月の役員会や幹事会、隔月の会報「なの花」の発行を行っています。行事の一環として秋のレクリエーションは、本多静六記念館を見学しました。その様子を、会報「なの花」（文責・植原）より抜粋させていただきます。

＊　＊　＊

まだ暑さの残る九月三十日午後、今年四月に菖蒲総合支所5階に新装オープンした本多静六記念館を見学しました。参加者は九名でした。

館内に足を踏み入れると、全体的に緑を基調とした色彩のせいか、また室内をぐるりと取り囲む高い天井までの壁面いっぱいに描かれた森林モチーフのせいか、一瞬別世界にはいりこんだ感がしました。先ず目を引くのが、総面積約二一〇㎡のフロアーの真ん中に立つ円筒形で仕切られたスペースです。内部は「公園設計等に関する業績コーナー」となっており、足下の床一面に描かれた大日本地図上に博士が手掛けた全国八〇以上の公園が示され、側面にはその公園の写真が展示されていました。円筒形の外側を回廊風にひとまわりできるようにレイアウトされちて、最初のビデオガイダンスに続いて、「生い立ち」「ドイツへの留学」「林学者としての業績」「人生哲学と社会貢献」「菖蒲地区の歴史と暮らし」「情報コーナー」の順に展示されている約三〇〇点の資料を見学しました。

今回の見学にあたっては、特に〝本多静六博士を顕彰する会〟会長の小山千秋氏と泰子夫人にお願いして、案内と解説をしていただきました。小山会長はご自身、千葉大学園芸学部卒で、現在は久喜市文化財保護審議委員を務めておられます。更に樹木医・造園修景士の肩書きをお持ちで、かつては不動岡高校、杉戸高校で教鞭をとられた方だけあって、熱意に溢れた語り口はとてもわかり易く、生き生きとした本多静六像が伝わってきました。

泰子夫人は、現在、本多家子孫の方々と親交があるとのことで、いろいろエピソードを交えてお話いただきました。

※本多　静六博士（一八六六年～一九五二年）・・菖蒲生まれの林学博士、造園家。日本の「公園の父」といわれる。日本最初の林学博士として、日本の造林学・造園学など、林学の基礎を築き、東京の日比谷公園をはじめ、北は北海道の大沼公園、南は福岡県の大濠公園など、日本各地を代表する公園の設計に当った人物としても広く知られている。

編集後記

わが父は九十歳で、週三回人工透析を受けている。が、すこぶる元気！九十の手習い…ではないが、通信講座会社の回し者ではないかと思うほど、英語、簿記、電気工事と、通信教育に余念がない。これも、孫に教えるためである。

生きるということは、「希望」を持つということ。長生きの秘訣は、「チャレンジ精神」にあるようだ。今日も仕事で遅く帰る私のために、テレビの見た料理作りにチャレンジして、私の帰りを待ってくれている…。

（広報部・進藤）

発行

女と男いきいきネットワーク久喜

【連絡先】倉持睦子 tel・fax（22）4545